

一般財団法人 印刷図書館は、あと2年で設立70周年を迎えます！

新しい日本印刷会館が平成17年に竣工して間もない平成21年6月、テレビ東京の情報バラエティ番組『出没!アド街ック天国』で印刷図書館が全国で紹介されたことを記憶しておられる方も多いと思います。新富町は新聞社が多かった銀座、活版製造所があった築地に近いという立地から、お隣の入船、湊地区とともに明治時代以降“印刷の街”として栄えてきました。番組の中でも新富町のランドマークとなっている日本印刷会館が、全国の印刷人が集う“総本山”として紹介され、さらにテナントを代表するかたちで、印刷図書館でも閲覧風景が放映されました。さらに番組では、印刷図書館が所蔵する貴重な蔵書の一つ「和訳英語聯珠」(明治6年刊)のページを開いて、「カレンダー」が英語とドイツ語で併記されていることを紹介、当時の時代背景を解説するシーンがありました。



印刷界の足跡を辿る『印刷雑誌』が、明治24年創刊号から120年分以上ずらりと開架で並ぶ閲覧室。

歴史

印刷図書館は、日本印刷学会の初代会長矢野道也博士の提唱に賛同された当時の大蔵省印刷局湯地謹爾郎氏を発起人として、印刷業界並びに関連業界各界から推薦された80余名の設立委員が中心となり、昭和22年3月、「印刷技術の進歩発展を通して文化に貢献する」ことを目的として設立され、中央区銀座で産声を上げました。その後、10数年の休館を経て、昭和38年、中央区新富に7階建の日本印刷会館ビル(旧日本印刷会館)が完成したとき、検討を重ねた末、多くの賛同者の協力を得て再開にこぎ着けました。その後、老朽化に伴い平成17年6月に新装となった8階建の日本印刷会館ビルの3階に入居、現在に至っています。そして、平成24年4月には組織を一般財団法人へ移行し、今まで以上に印刷の専門図書館として整備充実を図り、印刷関連図書の公開および保存に努め、印刷文化の発展向上に貢献しています。

所蔵する印刷文化財

印刷図書館は昭和40年代半ばから昭和60年頃にかけて、後世に残しておきたい貴重な印刷物を保存収集する運動を全国展開してきました。収集した印刷物は、全国の美術館および印刷に関する文化展などへ貸出し、公開してきました。また、印刷図書館が所有する江戸末期から昭和初期の印刷物およびポスターなどは、データベースに収録しています。



東京築地活版製造所をはじめとする明治から大正時代の各種活字見本帳類を数多く所蔵。



赤玉ポートワイン(大正12年)



明治屋キリンビール(大正7年)



国乃井清酒ポスター(昭和10年)

維持会員・個人会員 《入会のご案内》

印刷図書館は、2年後の平成29年(2017年)に、おかげさまで70周年を迎えます。これもひとえに、印刷産業界並びに関連各位、また、印刷を愛する篤志家の皆様方の長年にわたるご支援とご厚情の賜物と、心より感謝申し上げます。昨今、印刷産業界は、事情の多角化やデジタル化などを進めながら、事情領域を着実に拡大しているものの、その市場規模は1991年をピークに縮小傾向にあり、当財団の運営に影響を及ぼしております。しかしながら当財団は、これからも印刷の専門図書館として整備充実を図り、印刷関連図書の公開および保存に努め、印刷文化の発展向上に貢献することが使命と考えております。つきましては、みなさまのお力添えを賜りたく、ご支援ご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

※詳細につきましては、ホームページをご覧ください。 <http://www.print-lib.or.jp/>